

箱ブランコ

中西祐介

ゆられてゆれて

箱ブランコ

ぎゆうぎゆうに乗って

どこへ向かう

ゆらすやつが いなくなつたつて

うまくやれば 君とだけだつて

がんばっちゃえばひとりだつて

強がり言つて

箱ブランコで

床のパネル きしむかんじ

電車のつなぎめ

みたいだったな

箱ブランコ

寒けりやつめて

ちから自慢がゆらしてくれたな

ぎいぎい奏でる

関節たちが

乗ったことない馬車に似ていた

箱ブランコの下の土

少し混ぜると泥だんご光る

タイムカプセル埋めるとしたら

あの下だつて

笑つて言つたな

帽子の色は忘れちゃつたな

ゴム紐の味覚えてるな

箱ブランコで未来と過去と

近所のスーパ―

どこでも行けたな